ファミリーキャンプがくれた時間

札幌市医師会
札幌秀友会病院
藤原雄介（ふじわらゆうすけ）

今年、年男ということで新春随想の執筆の機会をいただきました。せっかくの機会ですので、近年の私の楽しみについて記してみたいと思います。

二年前から、我が家ではファミリーキャンプがかけがえのない楽しみとなっています。きっかけは、友人家族に誘われて訪れたむかわ町の穂別キャンプ場でした。バンガロー泊の夜、森の匂いと澄んだ空気の中で、息子たちが見せたはじける笑顔に、日常の緊張や疲れが一気にほどけていくのを感じました。その瞬間から、自然の中で過ごす魅力に心を掴まれました。

帰宅後すぐにSnowPeakのテントを購入し、白老のキャンプフィールドASOBUBAで初めての「我が家だけのキャンプ」に挑戦しました。設営に二時間もかかり大汗をかきましたが、その後に味わった一杯のビールは格別でした。子どもたちは遊具や川遊びや花火を楽しみ、家族揃って自然の中で過ごす時間の尊さを実感しました。

それ以来、六月から九月は月に一度のペースでキャンプに出かけています。昨年からは湖畔キャンプ用にSUPも取り入れ、今年は一泊から二泊に変更して中日をゆったりと過ごす余裕を楽しむようにもなれました。支笏湖のモラップキャンプ場・美笛キャンプ場、洞爺湖の財田キャンプ場・仲洞爺キャンプ場、石狩市の厚田キャンプ場、秩父別町のベルパークちっぷべつキャンプ場、安平町のときわキャンプ場など、道内の様々なキャンプ場を巡りながら、自然と向き合う日々を重ねています。

ただ近年は、北海道各地でクマの出没が相次ぎ、安心して野営を楽しめる環境が少しずつ脅かされていることに不安を覚えます。自然や野生動物との共生は大切ですが、子どもたちと安心してキャンプを楽しめる北海道であり続けてほしいと願わずにはいられません。

やがて息子たちも成長し、親とよりも部活動や友人との時間を選ぶようになるでしょう。その時が訪れるまでは、家族揃って自然に身を置き、語り合う時間を大切にしたいと思っています。ふと、子どもの頃に夢中で読んだ漫画『銀牙－流れ星 銀－』を思い出しながら、人と自然、動物たちとのつながりを次の世代に伝えていければと願っています。

新しい一年もまた、家族と共に笑顔を分かち合いながら、自然と共に歩む時間を重ねていきたいと思います。

二刀流

函館市医師会
はこだて港町眼科
松下知弘（まつしたともひろ）

明けましておめでとうございます。はこだて港町眼科の松下知弘と申します。今年で48歳となり、年男として北海道医師会から「北海道医報：新春随想」の執筆依頼を受けましたので、稚拙ながら執筆させていただきました。

さて、「二刀流」と聞いて皆さまは何を思い浮かべますでしょうか。僕はアメリカ合衆国のMLBチーム、ロサンゼルス・ドジャースの大谷翔平選手が頭に浮かびます。野球でいうピッチャーとバッターの二刀流というのは、彼が登場するまでは少年野球か漫画での話かと思っていましたが、彼は岩手県の花巻東高校時代からすでに将来を見据えてピッチャーとバッターの二刀流に取り組み、日本のプロ野球の日本ハムファイターズで栗山監督の指導の下、プロの世界で二刀流を開花させました。その後、アメリカへ渡ってから今に至るまでの活躍は皆さまご存じのことと思います。特に2023年に行われた野球の世界大会WBCでは、宿敵アメリカとの決勝戦の激闘、最後はピッチャー大谷翔平選手がバッタートラウト選手を空振り三振に抑え、３大会ぶり３回目のWBC制覇を成し遂げるといった、正に漫画のようなシナリオで幕を閉じたことはWBCを見ていた方にとっては記憶に新しいかと思います。今年の３月には次のWBCが行われる予定ですが、楽しみで仕方ありません。

一方で、今の僕自身にとっての「二刀流」といえば、眼科医としての診療と経営者としての職務がそれにあたるかと思います。勤務医の時は眼科医として研鑽を積んできましたが、恥ずかしながら経営の勉強はしてこないまま開業したため、診療所を経営していくための職務がこんなにも多岐にわたり大変であるとは思いもしませんでした。クリニック内の問題のほか、コロナウイルス感染症や診療報酬改定、医療DXへの移行など、外部の問題も解決しながら診療所を経営していかなければならず、日々身を粉にして働いているところです。開業して７年目の僕がこんなことをいうと笑われるかもしれませんが、今後いつまで開業医を続けられるかどうか……12年後の還暦にはどうなっているのか、良くも悪くも未来の自分に思いを馳せる今日この頃です。